

第10回 恵那南地区中学校再編委員会 会議録

・日時 平成28年1月15日(金) 19:30～

・会場 岩村振興事務所 大会議室

・出席者 中学校代表 小板忠昭

こども園代表 千藤まゆみ

地域自治区代表 山本純、西尾公男、黄地尚幸、原田知典、阿部道長、堀真人、

安藤仁志、安藤良一、川上貞夫、大島将官

中学校PTA代表 近藤祐司、松下雅昭、成瀬浩司

小学校PTA代表 渡邊大剛、川上渡

こども園保護者会代表 森井清、伊藤寛隆、堀雄二、川上翔

恵那南地区中学校あり方検討委員会委員 鈴木峰夫、中垣貞好

総合計画審議会代表 西村貢

行財政改革審議会代表 柘植麻美

振興事務所長 西尾茂文、後藤光男、勝川甲子、大島秀治(代理)、熊谷浩

教育委員会 大畑雅幸

事務局 門野幸次朗、岡田庄二、安藤一博、西尾克子、梅村浩三、石田祐一

山田耕司、度會将仁

・欠席者

小学校代表 春日井尚武

地域自治区会長会議代表 樹神和昭

中学校PTA代表 伊藤昌治、横光基

小学校PTA代表 小川道義、加藤信之、高井良三

こども園保護者会代表 小木曾耕司、成瀬一

事務局 土屋育代

・委員会内容

1. 開会挨拶 委員長、教育長

2. 議事

委員長 : それでは、議事に入ります。

(1) 学校統合の場所について、事務局より説明します。

事務局 : 第8回、第9回グループ討議のまとめた資料1について説明。委員から出された意見から最も重要だと思われる事項を事務局案としてまとめた。方向性として確認したい事項は、再編委員会としての平等な位置は山岡地区、通学時間は概ね1

時間以内とする。この2点が統合の答申書を構成する本文としたいと思う。

また、校舎を新築するという意見も多くあるので、この点は附帯事項として、考慮すべきこととして載せたいと考えている。附帯事項は、新築以外にもこれまでの会議で統合の場所を決めるにあたって出された意見を考慮して作成したいと思う。

委員長：今、説明した事項について、ご意見がありましたら発言をお願いします。

委員：岩村地区はもっと具体的な山岡地区の花白付近と、もう少し現実的な内容を入れてほしい。この内容では1年近く会議をしてきた意味がない。重要な地点を書き内容を修正していただきたい。既存校では無理だということを附帯事項には載せてあるが、新築新設でなければならない。

事務局：文書の案を検討する。

委員長：その他の地域はいかがですか。

委員：あまりにも内容が簡単にまとめ過ぎではないか。本当に言いたいことがこれではわからないのではないかと感じる。

委員：まとめは簡潔過ぎて、10回も論議されたことが反映されていないと思う。特に1校で論議してきたが、子どもの教育環境のことばかりで財政面のことは考えてこなかったが、新築するとどのくらい費用がかかるか。具体的な数字をあげてほしい。

委員：保護者の意見や住民の不安を委員は、共有しながらクリアするという手順が、本来のあり方と考えるが議論されずにきた。1校の統合案について各地域の保護者や住民に対して、十分な理解が得られたという判断は何を基準にされたか。

委員：各自治会長は色々なところで住民の意見を聞かれて、方向性を掴んで見えると思うので、統合の場所を決めて次の段階に進んでいくように、順次進めていくべきだと思うが、各地域の状況を代表者の方に伺いたい。

委員長：各地域の代表者の意見を伺いたいと思う。

委員：上矢作地区、串原地区の方は通学時間に支障があると聞くので、場所は平等な位置や距離から山岡か岩村か、明智だと思っている。これだけ少子化が進むと、ふさわしい教育環境を提供しようとする教育委員会の提案を聞くべきではないかと思う。出来れば早く1校で決めていきたいと思う。

委員：地域の住民には、事務局から来ていただき説明をしていただいている。地域で話しをすると意見が出るが、わからないことは文書でも回答していただいている。自治連の代表者会議でも、これからの少子化のことを考えると1校はやむを得ないという意見がある。串原は、恵南の中でも人口は少ないが20人前後保っているが、これから10年先や、去年、今年の出生した子どもが中学生になる時には、

3人、4人と10人以下の学級になってしまう。子どもたちが好きな部活、スポーツもできないという声も子どもたちから聞く。地域としては、諮問されたことを早目に答申すべきだと思う。内容は平等な位置がふさわしいのではないと思う。通学方法も今後検討する必要があると思う。福原から山岡まで通っているが、自家用車で30分あれば行けるので、スクールバスでも40分くらいあれば通えると思う。串原の子どもたちも中心の山岡になった場合には、1時間以内で通えるのではないと思う。早めに決めて子どもの新しい教育環境を整えていただきたい。

委員：やりたい教育環境ができない。もっと沢山の人の中で勉強させたいという意見が沢山あった。統合することに賛成の気持ちだと思う。具体的な位置は聞いてはいないが、中心的な平等な位置ではないかと思う。

委員：自治連では、子育て中の親の意見を重視すべきという意見が出ている。ある程度の規模の学校で、学ばせた方がいいのではないか。過去の経験でも統合してよかったという意見もある。場所は、距離や時間を考えて中心的なところがいいのではないかという意見がある。400人規模になると恵那東中、恵那西中と同等レベルの学校になると期待を持っている人もいる。1校に統合に反対の意見はなかった。

委員：地域協議会での意見は、委員会で既設校を改修して新設校とするような内容ばかりで危惧する。各地区の平等性を考えた位置に新設することが望ましいとは、新たな場所に新築するのが望ましいとの認識の上で、意見を述べており、既存校は、あくまで新築するにあたり参考とする資料のため協議しているが、既存校の改築による統合には賛同できないとの考えである。新築による統合場所を早急に検討する必要があると考える。明知鉄道駅の近くで主要幹線道路上の中心点に近い新築場所として、花白駅付近が適地と考え、通学時間、通学方法をご検討願いたい。方向性の確認したい事項の山岡地区という大雑把なくくりになっているが、答申の内容が大雑把ではどうかと思うので、山岡地区のどのあたりかを答申には載せるべきだと思う。地域協議会としては、花白駅付近が適地ではないかと考える。新築は附帯事項として考慮すべきとあるが、答申の中心になるのは新築になると考えている。

委員長：それぞれ地域の代表者が意見をまとめられたが、ほかにご意見はございませんか。

委員：地域協議会で学校再編のことを論議した。その中で通学のことを負担になり、統合するなら上矢作は岩村地区に学校を造って統合する。平等な位置は山岡ではあるが、山岡は遠いという意見がでた。また、岩村で明知鉄道に乗り換えるのは不

便であるため、スクールバスで学校まで通学するという意見が多く出ていた。今日の内容はそれぞれの所属団体の意見を聞いてまとめないと、責任が持てない。段階を踏んでいかないとしこりが残る。慌てて事を進めないほうがいい。

委員長：この委員会は学校の場所と統合の時期を議論して、答申することであって、そこから先は次の会で議論すると理解している。

委員：新築したときにどのくらいの費用がかかって、スクールバスの費用等を詰めないといけないのではないか。

副委員長：この委員会は場所と時期の答申をして、その後は別の委員会で詰めていくという認識を持ってほしい。事務局が委員の意見をまとめた答申案としていくのはどうか。

委員：この委員会の委員の意見を集約した答申を作っただけであればと思う。

委員：この会の基本は、統合の場所と時期を答申することで、話し合いをしてきた。予算とか、総合計画の兼ね合いは、踏み込んで考えるべきとは言われていないので、子ども達にとって望ましい環境を考えて、場所と時期を考えて答申を考えるべきだと思う。予算等は別問題であり、このテーブルにせるのは筋違いだと思う。場所と時期で答申を作っていくべきだと思う。

委員長：地域の意見をまとめて答申案として出していきたいと思うがどうか。

委員：先ほど予算のことはここに載せるべきではないと言われたが、なぜ既存校の改修費の具体的な数字を出したのか。

事務局：方向性の確認ということで短い文になっているが、答申案は、経緯、話し合いの内容も載るので、事務局でまとめて案を出したいと思う。なぜ色々な資料を提示したかは、考える過程で予算のことを情報として提供できる部分は提供した方がいいということで資料を提示した。丁寧な説明をと言われたが、串原からは質問をいただき、回答にも伺った。どの地域にも行き、質問にも回答していく。まだまだ十分ではないと言われたが、いつまで時間があったら浸透するのか。地域で話題として出して十分話していただいているか。事務局として1つの方向にまとめて行きたいと思っている。答申を受けて、責任を持って教育委員会がその後受けて進めると明言している。絵に描いた餅と言われたがこれは無駄という意味ではなく、市も必要であればお金を出すと言っている。必要かどうかの説明ができるかどうか、そこにかかっている。ここで受けたものを精一杯やりたいと思っている。そのことをわかっていただきたい。

費用について、既存校は、施設の規模がわかっているので、統合をして既存校を使う場合は、校舎の改修にどのくらい必要であるかは予想ができる。逆に新築に

なると現在、施設の規模も場所も決まっていないので、費用の算出は難しい。新設を考えたときに30億円であればいいのか、40億円であればいいのか、内容について今の段階で議論が難しいが、既存校の改修より費用はかかる。改修の内容がある程度目途がつく中で、費用を出したものである。ご理解いただきたい。

委員：既存校の改修の資料は、改修費の費用がどのくらいかかるか、参考になった。それを基に新築は上乘せして費用がかかることは理解しているが、統合には新築新設をお願いしたい。

教育長：願うことは、恵南地区の生徒数の現状から1校に統合して、その教育環境で生徒を育てたい。その中で現実的に費用のことで既存校の活用もあるので、資料提示をしてきた。この委員会で新築でないとならば、主張はしていかなければいけない。この委員会の目的は、諮問した場所と時期について、ご意見をいただき、この先教育委員会が進めていく上での足場にしたい。この地域の皆さんが託す子ども達の教育環境が飛んでしまわないように、費用がかかるから出来ないということはこの先のことであり、この委員会では純粋に、生徒達のことを考えて答申をしたらどうか。

委員：先日のアンケート結果は6割以上が不安な思いをしているという意見は、どのように活かされるのか。

事務局：7月から各地域において20回ほど説明会を行い、延べ1000人程の方が説明会に来られた。まだまだ統合までには時間があるので、これからも十分に説明をしていきたいと思っている。

委員：説明会で意見が出ないから賛成とは思わないでほしいという意見があった。説明会の時間帯が夜なので小さい子どものいる方は参加出来ないという意見に対してどのような対応をされたか。

委員長：確かにそういう思いはあるが、この会はそういうことを議論する委員会ではない。説明会は地域の要望に応じていくので事務局と相談してほしい。

委員：串原はこれから生徒5、6人の状態になるときがくる。恵南が1つに統合して行かなければいけない。大事なことがあるのであれば、各自治会で自分達だけでやるということを書いてほしい。統合は誰もやったとことがないため不安だと思う。しかし、子ども達のことを考えれば、楽な方向へ行くことだけではない。

委員長：恵南の人たちが1校に統合してほしいという意見が多いと、自治会長や委員の皆さんの意見があるので、統合の場所は、山岡に1校ということで答申案をまとめたいと思う。

委員：場所を考えるためにも上矢作は、通学方法とセットで考えてほしい。皆さんの意見を聞いて反映させなければいけないので、このまとめでは辛い。皆さんに賛成していただければいいが、上矢作では議論しないといけない。概ね1時間以内とあるが、1時間も通わせていいのか。1校に統合としているが、通学時間も財政のことも1校では解決できない。2校でも複数の学級があればクラス替えが出来る、専門教員ができる、部活ができると言われるが、2校でできることも沢山ある。1校が妥当なのかをもう少し考えてほしい。今日ここで結論を出すことはやめてほしい。上矢作に持ち帰って議論したい。

事務局：1校に1時間以内にするために、交通手段をどうするのかはこれから考えていくことであり、1時間以内に行けるように努力する。前回と前々回に議論したときに各地区の多くの意見は、1校で1時間以内に山岡地区という意見が多かった。それで進めるのが順当ではないか。

委員：1校ならどこがいいかという縛りの中での論議だからである。

事務局：それは最初の諮問であり、議論の中でどうしても何をしても1校は無理だということになれば、教育長は2校でもいいのではないかとということだが、1校で何とか進められるということで、ここまで話は進んできている。

委員長：その他の委員の意見はどうでしょうか。

委員：串原は全PTAを集めて、意見を出していただくようお願いをした。12月中旬に回収し清書して、全員に渡して回答しようとしている。その中には反対も賛成もある。場所をここで決めてもいいという回答はもらっていない。今日この場でPTA代表としては返事ができない。持ち帰って話しをして納得の上で、場所を出したいと思う。通学時間が概ね1時間以内とあるが、串原は1時間で通学すると明智が妥当だという話をした。1校に統合するとスクールバスもかなりの台数が必要になる。

西村委員：スクールバスのあり方について、小型バスや10人乗りのマイクロバスを想定しても今後20年、30年続くかは、検討の余地がある。例えばデマンドバスやワゴン車で運用するなど色々な手法がある。運輸手段は、バスの大きさ、時間帯、経路は、毎年毎年変わってくる。毎年1時間を目途として、バスの大きさや運輸ルートを見直す柔軟性を持たなければいけない。決めたら未来へ永年続くと思っ
てはいけないと以前も話をした。1校か2校かは、教職員の複数化、生徒自身の社会性、教育のあり方、学力、教育力が第一にあるべきだと思う。昨年生まれた子どもは概ね80人。昨年度も80人、10年後の1年生は80人。適正規模の持続性を考えれば財源についても適正規模の財政支出があり得る。現実に想定で

きる数でシミュレーションをして、しっかり議論しなければ絵に描いた餅になる。理想形と実際に必要な規模にずれがある。それによって財政規模も違ってくる。財政規模をいくら見積もっているのかという質問は、答えられるとも言えるし、答えられない。どの規模を想定するのかである。

委員長：答申案に山岡地区に1校ということ載せていいのかを伺います。

委員：最終の答申案ではない、第一次の案であって、場所にしても山岡駅なのか、花白駅なのか、どこのあたりかを詳しく載せるのか。第一次の案として出していただいて、後は色々な意見を盛り込んで、案を修正していくことは必要ではないか。

委員：原案を作成していただき、その案を見て今後修正をしていきたいと思う。

委員：串原のPTAからのアンケート結果がこれから出るという意見もあるので、必ずしも今日ではなくても、結果が出るまで待つことはできないか。

委員：委員に与えられた任務があり、あり方検討委員会で議論されて、この委員会に諮問されていることを考え、子ども達の将来を考えると近いうちに目鼻をつけなければいけないと思う。将来10年後のことを考えると、子ども達がさみしい思いをする。部活も出来て教育環境の良いところで学ばせたい。通学もこれからいろいろシミュレーションして議論していけばいいと思う。平等な位置で答申案を作ってもいいと思う。

委員：串原は、PTAの意見をまとめて、今日の会議のことも話して、山岡地区ということで承知してくれるかという確認をとりたい。次回の会議までに結論は出す。それまで待ってもらえないか。

委員長：上矢作はどうでしょうか。

委員：いつまでも延ばしていてもいけないので、ある程度の目途をつけて検討していきたい。山岡の明確な位置を示してもらおうとわかりがいいと思う。

委員長：串原のPTAから保護者に問い合わせをしているので、委員の皆さんは2月5日に1校案で場所は、どこということまとめていきたいと思うのでお願いします。

委員：皆さんに聞いてくるにしては、2月5日は厳しいのではないのでしょうか。

委員：それは努力すべきである。串原のPTAもそれまでにはできるのでしょうか。2月5日でいいのではないか。

委員：それくらいの覚悟がなければ、意見を言うべきではないと思う。あり方委員会と同じことをしてはいけないと思う。

委員長：次回の会議は2月5日に開催し、答申案をまとめていくのでお願いします。議題2の統合の時期について、事務局より説明をお願いします。

事務局：学校統合の時期について、生徒数が減少し、平成30年度には400人を割り、

平成32年度には4校が学年単学級となる。統合に向けての説明期間、調整期間が必要である。施設整備にもある程度の期間が必要。新築であれば5年。統合時期は3年前に周知する。方向性として確認していただきたい事項は、5年後の平成33年度までには1校の統合を目指す。この点が答申書を構成する本文としたと思う。

委員長：統合の時期について、ご意見がありましたらお願いします。

副委員長：事務局案について、各委員の意見をまとめていただき次回の会議では確認をしたいと思いますのでよろしくお願いします。これをもって第10回恵那南地区中学校再編委員会を閉会します。

21：18 終了